

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『ゼロカーボン・ローカルSDGsに関するPF形成』

活動団体の活動地域	： 滋賀県湖北地域
活動団体名	： ともすラボ
中間支援主体名	： エネシフ湖北

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

- ・ 脱炭素やローカルSDGsに関するビジネスや活動が次々と生まれるような地域
- ・ 活動している主体同士が緩やかに繋がっている状態
- ・ 地域外のリソースを地域内がうまく活用し、連携できている状態

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

- ・ 主体同士のつながりが創出される場
- ・ ビジネス化に繋げる場・仕組
- ・ 資金や人材がまわる仕組
- ・ 地域内外の人材が挑戦できる場
- ・ 多くの関わり口
- ・ 官民（学校・金融）の連携

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ・ 断熱×教育
- ・ 地域の資源で地域のお祭りを灯す
- ・ 地域交通をアップデート
- ・ 地域経済循環を可視化
- ・ 再エネ開発の地域のコーディネート
- ・ 地域全体で各自の動きを共有する場



地域の現状

- ・ 脱炭素やローカルSDGsに関して多くの主体が活動している状況。
- ・ 事業のタネやプレイヤー候補が多く存在。

2026年度末の状態目標

- ・ 脱炭素×〇〇のプロジェクトや事業が次々と生み出される仕組みが構築される。
- ・ 地域課題を解決するような事業が生まれる。
- ・ 既存の産業のトランジションが起こり始める。
- ・ 湖北地域全体に、この動きが連動していく。

2025年度末の状態目標

- ・ 一定の組織体制や役割分担が見える中で、実績を積み上げていく

2024年度末の状態目標

- ・ 長浜や湖北での中間支援組織の在り方や役割分担に関して一定の方向性が見出せる
⇒エネルギーエージェンシー、エネシフ湖北、ともすラボ等の役割の整理
- ・ 「これこそ長浜・湖北の目指すゼロカーボンの事業、プロジェクトだ」という事例を作る
- ・ コアな担い手の顔ぶれが見えてくる（従来のエネシフ湖北の3人以外）

中間支援の方針

■見立て

- ・活動団体のメンバーは繋がりをつくりプロジェクトを動かしていく力はある。
- ・中間支援主体としては、地域内のキープレイヤーや専門人材、行政との連携に関してサポートを行うほか、情報発信について支援する。

■打ち手

- ・他のプレイヤーと繋ぐ
- ・専門家と繋ぐ
- ・行政との連携支援
- ・情報発信（webサイト、ライティング）

■中間支援機能の強化・振り返り

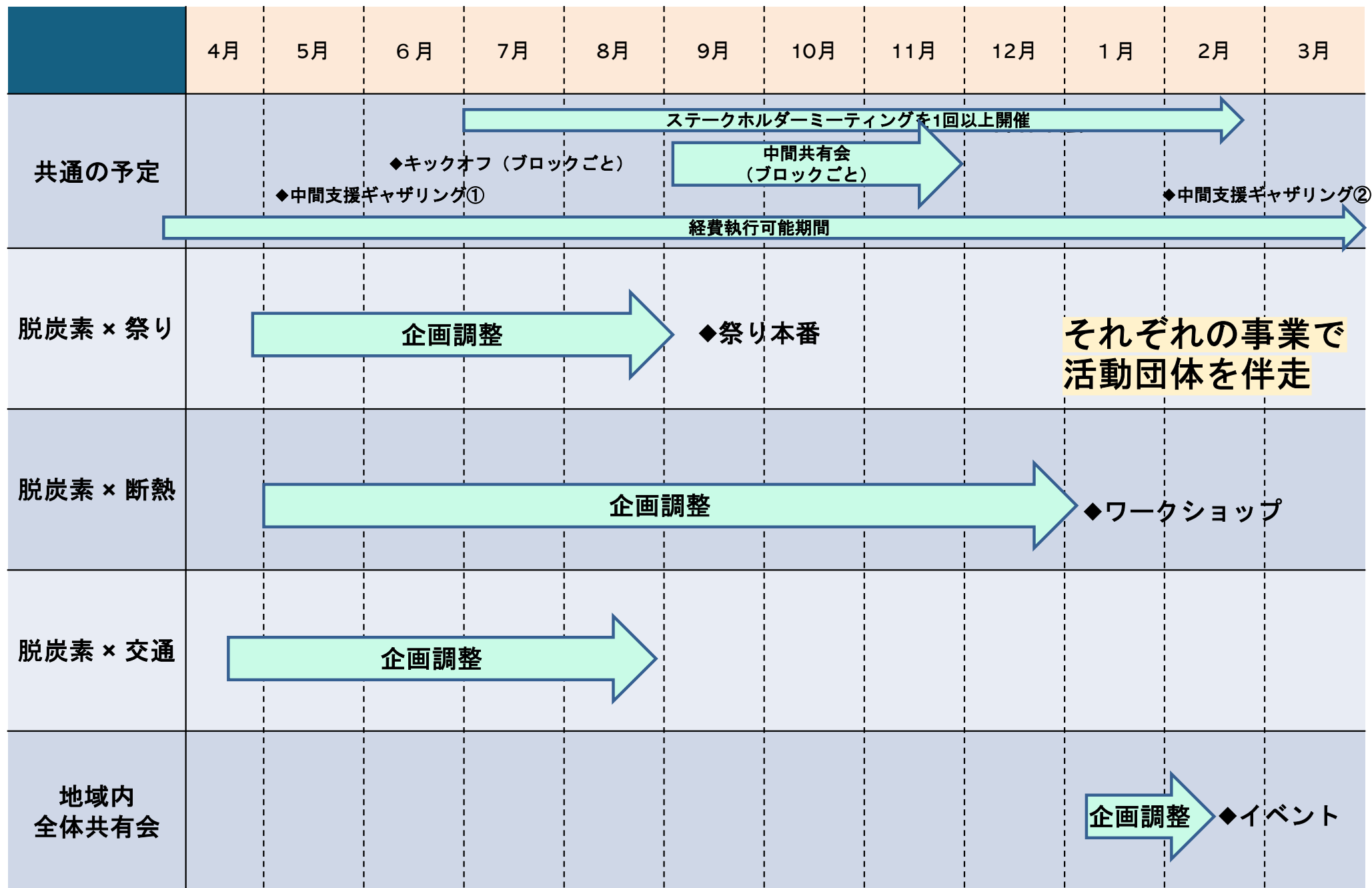
＜獲得したいこと＞

- ・ネットワーキングのスキル
- ・地域内外での信頼獲得
- ・事務局体制の強化、若手メンバーの育成

＜地方環境事務所等への期待＞

- ・国の政策への反映
- ・長浜での取組の全国への発信

中間支援の計画



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

地域のビジョンを描く

中間支援主体の支援

- 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て
 - >地域内のみではリソースに限界がある
- 具体的な支援内容（打ち手）
 - >地域外企業との連携
- 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）
 - >期待感の増加
 - >活動の広がり
- 中間支援主体としての気づき・成長
 - >地域内のみではリソースに限界がある

活動団体の取組

- 活動名・時期
 - >社会的に生きづらさを感じる人々の活躍の場を。
- なぜそれを実施したのか（実施目的）
 - >社協のもつ課題や地域との繋がりを活かして、地域をよりよくする事業を考える
- 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）
 - >ステークホルダーがこれまでにない広がりになった

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

事業を生み出す

中間支援主体の支援

- 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

>学校だけでは多くの主体との連携の調整が難しい

- 具体的な支援内容（打ち手）

>各主体の間に入ってコミュニケーションを円滑にする

- 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

>2年目は学校がかなり主体的に実行

- 中間支援主体としての気づき・成長

>自立を促すための距離感の重要性

活動団体の取組

- 活動名・時期

>断熱ワークショップ

- なぜそれを実施したのか（実施目的）

>ワークショップを通じて断熱の重要性を社会に広げる

- 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

>継続することで、「断熱」や「省エネ」に関して共有する価値が少しずつ広がってきた

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
チェンジエージェント機能	プロセス支援	(3) ①	関係者間のミーティングの設定
チェンジエージェント機能	変革促進機能	(5) ①	日常的なコミュニケーションの中で

- 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

>継続することで、活動団体が自立していく力を引き出せた

- 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

>地域外の企業の巻き込み
>活動団体の自立の促し

- R6課題だと感じたこと

>関係性づくりから事業（ビジネス）へ昇華させていくこと

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるか。R7～中間支援主体として今後どのようなになりたいか。

>様々な人や団体を繋ぐ場の設定だけでなく、事業を生み出すための具体的な支援を行える団体

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

>より具体的な事業展開に必要な手段を提供するような繋げ方

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

>現状に関する客観的な視点でのコメント